

第16回

らくぶん 楽文コンテスト

各賞受賞作品発表!!

君が大好きなこと

君の家族のことや友達のこと、

大好きなお祭や夢中になっている事。

いろんな君の「大好き」を教えてください。

詩・作文・歌、君にあった方法でかまわない。

一行でも、誤字・脱字、

ぜんぶひらがなでもOK。

じょうずじゃなくてもいい。

そう、「楽文」でいいんです。



NPO 博多の風 第35回 博多の風フォーラム

- ◎主催 **博多の風**
- ◎特別協賛 **docomo**
- ◎協力 博多祇園山笠振興会、(株)毎日新聞社、RKB毎日放送(株)、日本電気(株)
- ◎選考委員 豊田 侃也氏(博多祇園山笠振興会 会長)
永守 良孝氏(RKB毎日放送 代表取締役 会長)
沢田 幸二氏(KBC九州朝日放送 パーソナリティ)
大庭 宗一 (NPO博多の風 理事長)

- ◎協賛 西部ガス(株)、西日本鉄道(株)
- ◎後援 福岡市、福岡市教育委員会、福岡商工会議所
(一社)九州経済連合会、(株)岩田屋三越、九州電力(株)
九州旅客鉄道(株)、(株)九電工、コカ・コーラウエスト(株)
(株)西日本シティ銀行、NTT西日本福岡支店、(株)福岡銀行
[順不同]

第44号

平成28年11月発行

近年の活動

※設立からの詳細はホームページをご参照ください
<http://hakanokaze.jp>

平成27年

- 4月 第34回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師: 因幡 敏幸氏(春日大野城那珂川消防本部)
- 6月 第14回 追山コース探訪 開催
- 7月 第15回 楽文コンテスト 開催
- 11月 第35回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師: 戸谷 弘一氏
(福岡県警察生活安全部 参事官兼
生活安全総務課長 警視)

平成28年

- 4月 第36回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師: 沢田 幸二氏(KBC九州朝日放送アナウンサー)
- 6月 第15回 追山コース探訪 開催
- 7月 第16回 楽文コンテスト 開催

NPO博多の風の歩み

- 設立
平成10年 9月
任意団体『博多の風』設立 代表: 大庭宗一
- NPO登記
平成12年 6月
『NPO博多の風』として登記 理事長: 大庭宗一

NPO博多の風事業概要

- 啓発事業
・博多の風フォーラム開催
・広報誌・HP発行
・毎日新聞世論フォーラム公聴
・作文コンクール(楽文コンテスト)開催
- 地域環境向上事業
・博多の町親交
(清掃活動クリーン作戦・冷泉小学校跡地提言・山笠文化継承)
- 活性化事業
・書籍出版
・博多祇園山笠の振興
・追山コース探訪開催
- 協力事業
・各市民団体との情報交換及び支援

NPO特定非営利活動法人



〒812-0027
福岡市博多区下川端町8-16 -302
FAX 092-263-7188

E-Mail info@hakanokaze.jp
URL <http://hakanokaze.jp>



博多祇園山笠振興会賞

算数の僕・数学の僕

●野間中学校1年

川島 遼

「こうしてこうすると、いやまてよ……。」
僕は数学が好きだ。もちろん、国・数・社・理・英の五教科の中で最も好きな教科は数学。僕にとって数学とは、ゲームと同じ感覚の娯楽なのかもしれない。

好きになつたきつかけは、中学受験に失敗したからだ

た。私立中学校を受験しようかと決断した僕は、とにかく算数が大の苦手であり、そして嫌いであつた。だから、嫌いな算数を一点でも取れるようにしようかとむしやりに励んだが、なかなか伸びない。受験直前、ようやく算数の点数も安定して取れるようになったものの、合格へとはならなかつた。泣いた。その日の夜は、声を上げて泣いた。

そこで思つたのだ。中学から始まる数学と仲良くなるう好きになろう、と。それが原点で、結果が出た次の日、僕は早速中学の問題集を買いに

行つた。「やつてやる」、そういう気持ちで。
やはり、最初は手こずつた。ただでさえ、算数が苦手なのに大丈夫なのか、と不安にもなつた。でも、分かってくる

と楽しい。嬉しい。気持ちがはずむ。前向きになれる。そういう快感を味わいたいがためにもっともつと解きたくなる。クラスの友達から時々、

「変わつてるね」と言われる。けれどもそんなことは関係ない。なぜなら、もう二度と六年生の時のような思いはしたくない、という堅い信念があるからだ。数学は、僕を本気にさせてくれる。

僕には、いつも数学を争つている友達がいる。同じくいろいろと濃いが、友達のほうが内容は濃い。「どのくらい進んだ。」と聞き合う度に、僕の心は奮い立つ。ライバルは最高だ。僕は彼を、最高のライバルだと思ふ。

僕が今までしていた中で一番楽しかつたところは「証明」だ。答えは分かっているが、それをどううまく説明できるか、ということに重点をおいて考えるところが楽しい。僕にはまだ知らないことがたくさんある。ガウス記号・ピタゴラスの定理・黄金比……。数学は無限大だ。まだ

解かれていない謎ははかりしれないほどある。だからこそ、おもしろい。これからも、難しい問題、易しい問題関係なくたくさん問題を解いていきたい。

僕が好きな場所

●野間中学校1年

坂井 瑠衣

僕が、好きな場所は、油山だ。好きな理由は、大きく分けて三つある。

一つ目の理由は、自然を感じる事ができる点である。耳を澄ますと、鳥のさえずりや虫の鳴き声、川の流れる水の音が聞こえる。また、運が良い時には、きつねが山の中から出てきたり、めずらしい草花を発見することが出来る。自然の中に身を置くと、嫌な事も忘れ、とてもすがすがしい気分になり、リフレッシュできる。

二つ目の理由は、油山の絶景だ。山頂まで行く途中、木々の隙間から入り込む光が、とても美しい。川の水が光が反射されて、まるで、オーロラ

発表！ 第16回楽文コンテスト 入賞者

毎日新聞社賞

- ・「ぼくの祖母から学んだこと」 赤坂小学校6年 小寺 夏海
- ・「大好きな街」 小田部小学校6年 佐藤 太陽
- ・「大好きな歴史」 野間中学校1年 坂口 太陽
- ・「私の大好きな国子のおばさん」 城西中学校1年 佐々木 雅
- ・「黄色への挑戦」 城西中学校1年 山田 萌

RKB毎日放送賞

- ・「世界で一つだけの特別な地図帳」 西高宮小学校5年 大畑 敦幹
- ・「私が夢中になっていること」 姪北小学校5年 永松 芭菜
- ・「ソーイング」 西高宮小学校5年 森山 稔彩
- ・「おっかん」 名島小学校5年 矢野 詩織
- ・「大好きな釣り」 赤間小学校6年 佐藤 翼

NPO博多の風賞

- ・「本と『旅』」 香椎第三中学校2年 立石 望笑
- ・「トライ」 香椎第三中学校3年 岩永 孝太
- ・「私がお好きなこと」 和白中学校3年 夷 日向
- ・「わたしのかけがえのない大好きなもの」 野間中学校3年 田淵 梨瑚
- ・「私の好きなこと」 和白中学校3年 安田亜美佳

博多祇園山笠振興会賞

- ・「算数の僕・数学の僕」 野間中学校1年 川島 遼
- ・「僕が好きな場所」 野間中学校1年 坂井 瑠衣
- ・「レベルアップできた夏」 那珂中学校2年 岡部 由季
- ・「大好きな二人」 照葉中学校2年 香山 花梨
- ・「選手たちから学ぶ」 照葉中学校2年 林 里桜

NTTドコモ賞

- ・「おてつだいたいすき」 南片江小学校1年 柏原 李香
- ・「わたしのだいすきなかぞく」 和白東小学校1年 人見 愛空
- ・「大ききな本」 西高宮小学校2年 菖蒲 優志
- ・「大ききな泳」 野芥小学校3年 田邊 海心
- ・「うれしいことかなしいこと」 野芥小学校3年 藤木 悠

NEC賞

- ・「大ききなおともだち」 奈多小学校2年 森 悠真
- ・「わたしの大好き」 杵岐小学校5年 森田ころこ
- ・「一つの試練」 野間中学校1年 甲斐 匠馬
- ・「私がお好きなこと」 照葉中学校2年 村田 日菜
- ・「君がお好きなこと」 田隈中学校3年 岸川 千明

のように見える。また山頂から見える街並みも格別だ。普段は、見れない場所を違う角度で一望できる。大きく見える場所がとても小さく見える。また、天気によつて同じ景色も、違つて見えてとてもきれいだ。

三つ目は、友達の温かさを感じられる点だ。僕は、仲の良い友達と自転車で登る。坂の勾配が強く、登るのに大変な場所がある。一人でも、苦しそうな友達がいると、「フアイト。」

「頑張れ。」
「あと少しだ。」
と、声をかけあう。このような言葉をかけたり、かけられたりすると、お互いに頑張れる。苦しい道のりも、少し楽になるような気がする。このような、友達の温かさを感じる事で自分も、優しくなれるような気がする。普段の生活

の中で、なかなか人の温かさや優しさを明確に考じる場面は少ないが、本当に苦しい時に、声をかけてくれる友達がいるという事は、とても幸せな事だと思う。その友達を僕は、大事にしたい

最後に、最近では、テレビやインターネットの普及により様々な場所を見ることができきる。しかしながら、実際に

行くのと、映像で見るとは、大きな違いがあると思う。僕にとつての油山という場所は、何度行つても同じという場所ではなく、新たな発見や刺激、感動に満ちあふれ、活力を与えてくれる場所であり、僕の大好きな場所である。

レベルアップできた夏

●那珂中学校2年

岡部 由季

「えっ、本当に。うれしい。」
中学二年の夏、ついに私は、大会のメンバーに選ばれた。

私のいる放送部には、年に二回、夏と冬に開催される放送コンテストに出るメンバーを決めるオーディションをしている。四人しか選ばれないため、結構難しい。その四人に選ばれた時、嬉しい気持ちと緊張感があつた。

しかし、浮かれている場合ではなかつた。さっそく、自

分で原稿を考え、練習を始めるなければならなかつた。最初は、テーマを決めて文を書くなんて簡単だと思つていたが、いざ書くこうとすると、良い書き出しが思いつかない。文章ができて、認められるまでにとても時間がかかり、原稿用紙の量がどんどん増えていった。何度も、もうやめたいと思う事はあつたが、選ばれなかつた人の分まで頑張らないと。と思い、あきらめず頑張つた。そうしてやつと原稿が完成した。顧問の先生に認めてもらった時、やつと合格できた。という達成感と安心感があつた。

だがもう一つ、大事な事がある。作つた原稿を読む練習だ。これは当日まで終わりがこない。自分が書いた内容をいかに聞き手に伝えられるかだ。それが一番大切な事だが、とても難しい。顧問の先生や先輩、友達に聞いてもらいながら、どのような工夫をするか考えたり、部活の時以外でも正しく発音する練習をしたりと、それをほぼ毎日続けた。

そして大会当日。思つたより緊張せず落ち着いて自分の出番を待っていた。だが、他の中学校の人のアナウンスを聞いているうちに、本当に私なんかのアナウンスで大丈夫

なかと不安が大きくなつていた。でも私は私。練習のようにならばいい。自分を信じよう。と言ひ聞かせた。

ついに来た。私の番が。ステージの上は、キラキラとまぶしかつた。マイクを前に、笑顔を作つた。落ち着いて、いつも通りにできるように。そのおかげか、アナウンス中も口角を上げ、笑顔でできた。今までの練習の事を思い浮かべながら、最後まで落ち着いて、やり切る事ができた。

言葉を通して人に何かを伝える事はとても難しい事だ。この大会で学ぶ事ができた。入賞はできなかったが、顧問の先生や友達が、沢山ほめてくれた。そして、これまで、沢山の友達に支えてもらひ、応援してもらつているからこそ、この大会に出場する事ができ、成長できたのだ。この感謝の気持ちを忘れずに、次の大会に向けて、努力していこうと思つた。この夏、私はレベルアップできた。

大好きな二人

●照葉中学校2年

香山 花梨

「べっぴんさんねえ。」
いつも祖母の家に行くと、ひいおばあちゃんが笑顔で言つていた。あの小さい頃の記憶は今だに頭に残つている。

去年十月、大好きだったひいおばあちゃんが亡くなつた。その報告を聞いた私は、まだ起きたばかりでねぼけているのだらうと思つていた。しかし、それは現実であつて家族全員がおどろき、悲しんだ。ひいおばあちゃんは百三歳という長い人生を終えたのだつた。

ひいおばあちゃんは、いつも明るくて元気でその年とは思えないほどで、みんなから愛されていた。私たち、ひ孫がひいおばあちゃんの部屋に行くくと、毎回のようにおこづかいとボンタンアメをもらつていた。そのたびに私たちは満面の笑みを浮かべていた。そして、必ずおこづかいの入っている袋には「元気でがんばって下さい。」と書かれていた。今思うと私たちのことを本当に心から愛し、大切にしてくれていたんだと思ひ、感謝の気持ちでいっぱいだ。

他にも様々な思い出がある。一緒にカルタをして遊んだことや、白寿のお祝いに多くの親せきが集まって一緒に歌ったり、写真を撮ったりしたことが次々と思い出される。そんなひいおばあちゃんとの思い出は私にとつての宝物だ。お葬式には想像以上の人がきて、おどろいた。そして、たくさんの人が涙していた。それを見た私は、本当に愛されていたんだなと心が温かくなった。

そして、今年が初盆で、私も毎日のようにお手伝いに行った。なんと合計で二百人以上の人がきてくれたのだ。祖母はひいおばあちゃんと血のつながりもないのにお客さんに出すものも作ったり、お客さんと話をしたり、朝早くから夜までそれをお盆中ずつと続けていた。また、ひいおばあちゃんが亡くなるまで看病なども全て祖母がしていた。私はそんな祖母を尊敬している。祖母がいたからこそ、ひいおばあちゃんはこんなにも長く生きられたのだし、みんなからも愛されたのだと思う。だから私は祖母も大好きだ。将来、こんな人になりたいと強く思う。

そんな祖母がいて幸せだったであろうひいおばあちゃんを感じなかったけど、いつも祖母がやっていたことがすごいことだったんだなと、今回の入院で知ることができた。いつもは耳が遠いので、僕たちが言っていることをちゃんと聞きとってくれなくて、とぼけた内容にうけとるので、イライラするなあと思うことがあったけど、このことに気付いて、祖母のことをとても尊敬しました。かっこいいなあ、こんな、さりげなく人のために何かできる人になりたいなあと思いました。

は、今、この世にはいないけれど、私の心にはいつもひいおばあちゃんが出て、あの小さい頃のように笑顔で見守られているような気がする。どんなことがあってもいつも心の中にはひいおばあちゃんがいるのだからのりこえられると思う。私はいつも大好きなひいおばあちゃんや祖母に見守られていて本当にとても幸せだ。

選手たちから学ぶ

●照葉中学校2年

林 里桜

今年の夏は、いつもと少し違う。なぜなら、オリンピックが開催されるからだ。オリンピックは四年間選手たちががんばってきた成果を発揮する集大成の場でもあり、世界中の人々が国境をこえて盛り上がる行事でもあるのだ。だから私は、この四年に一度のこの行事が大好きだ。

私がオリンピックをここまで大好きな理由は大きく分けると二つある。

一つは選手たちががんばり

や活躍に感動したり、応援したりすることができからだ。歯をくいしばる姿、最後まであきらめない姿や練習の成果を発揮し、涙する姿に私たちは感動する。また、私も何事においても一生懸命取り組もうという気持ちを持つことができるのだ。オリンピックはただ競技するだけでなく、選手の気持ちに考えさせられ、私たちに何かを教えてください。心が暖かくなる。

そしてもう一つの理由は、世界とのつながりが感じられるからだ。それを私が一番感じた場面が、水泳の競技後の様子だ。レーンをこえ、ハグをするのだが、そのときの表情を見るとお互い微笑んでいた。数秒前までライバルだったが、泳ぎ終えるとレーンをこえ、国境をこえ、楽しそうだった。私はこのとき見ていて「オリンピックっていいなあ。」と一番感じた場面だった。

オリンピックとは、ただ国の代表が一位を目指して争っているだけのように見える。私はそれだけではないと思う。勝利したときの嬉し涙の裏に、どれだけ悔し涙と努力があるのか。一人一人どんな気持ちで競技をしているのかは分からない。でもこれだけ

もソフトバンクホークスの熱いプレーをたくさん見せてほしいです。

そして三つ目は、福岡は自然と都会がどちらもあってすみやすい所が気に入っています。僕の家から40分くらい車で走ると、糸島市という所が海につきます。波がおだやかで晴れている時には、海面の色が、エメラルドグリーンのような色でとてもきれいです。そして夕方にドライブで通った時は夕やけがとてもきれいで、海もきらきらしてよりきれいに見えました。

今回、伝えきれないくらい実は福岡には、良い所がいっぱいあると思っています。食べ物や街、地元みんなが応援しているスポーツチーム。そしてぼくの周りにいるたくさんの方と福岡で出会えてよかったなと思っています。大好きな福岡の街が、これからもずっと良い街でいてほしいと思います。

けは言えるのが「最後まであきらめない姿」だ。私はいつも「めんどくさい」「もう無理だ」と思ったらすぐ放り投げてしまう。でも選手たちは自分がどんなに不利な状況にたたされたとしても、一人もそこであきらめた選手はいなかった。だから私も「あきらめずに最後までやり通す」という心を大切にしていきたいと思う。

選手たちは私に大切なことを教えてくれた。感動をあたりんピックが大好きだ。

毎日新聞社賞

ぼくの祖母から学んだこと

●赤坂小学校6年

小寺 夏海

僕の家族は、祖母と二世帯住宅で住んでいます。祖母は八十一才ですが、みんながびっくりするぐらい元気です。朝は六時に起きて、毎日かかさず家の周辺の花や木に

大好きな歴史

●野間中学校1年

坂口 太陽

僕は日本史が大好きです。好きな時代は戦国時代と幕末です。どういふところが好きなのかというと、その時代に生きていた人に魅力を感じるからです。戦国時代では黒田官兵衛や真田昌幸の知力、主君を影ながら支える豊臣秀永や片倉小十郎、直江兼統などがうまく主君を支えているのはすごいと思います。勇猛に戦う武将も大好きです。

幕末は新選組が好きです。幕末につかえていて、幕府がどんなに不利な状況になっても忠義をつくして戦いつづけるところが好きです。人物的には、お世話になった会津藩のために新選組本隊とわかれてまで戦った斎藤一、死ぬ時まで仲間のことを思っていた沖田総司が好きです。

歴史のおもしろいところはほかにもあり、僕はまだ真相がわからないミステリアスなところがあるのがいいと思います。例をあげるなら、本能寺の変の明智が裏切った理由、坂本竜馬暗殺の黒幕、新選組の原田佐之助や見廻組の今井と渡辺が自分が殺したと

水をあげて道路のゴミを拾っています。昼は、十一時頃から天神や大濠公園を、一時間かけて散歩をします。夜は自宅と併設されている囲碁サロンの食器のかたづけや、軽い掃除をしています。そんな、いつも元気な祖母が、先日玄関を出る前に、ドアを支えている足に引っかかって転倒し、おどろい場に倒れていました。腰の痛みが強くて、自分では動けない様でした。僕と母とこのことを知らせてくれた囲碁サロンの先生とで、なんとか祖母を部屋の中に運びました。僕は、普段元気で歩きまわっている祖母の姿しか見たことがなかったので、ものすごくおどろき、急にとても心配になりました。翌日、病院へ行き、レントゲンを撮ったら、腰椎圧迫骨折でしばらく安静にしなければいけないので、入院してしまいました。まったく動けないのはかわいそうだけれど、命にかかわるようなことではなかったので、本当に良かったと思いました。

祖母が入院して十日程たった時に、僕はあることに気がつきました。家の前の道路が、タバコの吸いガラやビニール袋、落ち葉などで散らかっているのです。僕は、普段全く

いったといわれています。謎を推理するのもおもしろいです。僕は城や博物館に行くのも好きです。城はあまり多くは見えないけれど福岡城、小倉城、熊本城を見ました。天守のこつてない福岡城と天守がある熊本城では、やはり迫力がちがいました。今まで一番すごいと思ったのは熊本城は天守以外のところもすごかったです。ですが、この前の熊本の大地震でくずれた時はすごく残念でした。城ではないけど広島県の宮島にある厳島神社は水にういていて、きれいでした。福岡県に住んでいるので、博物館は福岡市博物館と九州国立博物館によくいきます。見るものは戦国のものを多くみます。刀や甲冑などは普段近くで見られないので見るときはいつも楽しみです。今まで一番すごいと思ったものは数年前にあった軍師官兵衛展にあった母里太兵衛が使った日本三名槍の一つ日本号がいまでも心に残っています。

僕は歴史が好きだけど、まだ知らないこともたくさん勉強して、城なども、もつと見たいです。

大好きな街

●小田部小学校6年

佐藤 太陽

ぼくは、五年前に父の仕事の関係で福岡に引っ越してきました。前に住んでいたところは関東地方で、九州へ来たのはこれが初めてのことです。どんな所かドキドキワクワクしていました。そして今、ぼくはこの福岡でたくさん友達が増えてきました。これから

私の大好きな

国子のおばさん

●城西中学校1年

佐々木 雅

私は、国子おばさんが大好きです。国子おばさんは母の高校の先輩で、年齢は79歳で、とても優しくみんなから好かれていきます。

今年の夏休みに、私は国子おばさんの家に行きました。家には自分が描いた綺麗な絵が沢山飾られ、本棚には画集が沢山ありました。私は絵が大好きなので、図工の教科書に載っているドガの画集を見ていたら、その本を贈ってくれ、丁寧に絵の話をしていました。

ところがその日は八月十五日だったので国子おばさんは、「私達が小学生時代に戦争で体験した事を若い世代に伝えておかなければならない」と思うようになった」と言い、私に小学生の頃の戦争体験を話してくれました。

敗戦後二年間女の子は中国兵やソ連兵から、連れていかれないように頭を丸坊主にして、男子の学生服を着て、兵が来た時は畳の下か屋根裏に隠れて身を潜めていたそうです。そんなある日、また兵が来て、母と妹は屋根裏、国子

おばさんは畳の下に隠れて身を潜めていた時、畳を剥ぐ音が聞こえ「これで私の命もおわりだ」と覚悟を決めた矢先、それは押入れを開ける音だった、という体験があったと笑っていました。目は悲しそうでした。

まるでアンネの日記のような話を聞き、本当にこんな辛い体験があり沢山人が死んだ事を知りました。国子おばさんも死と隣り合わせの小学校時代を生き延び、今があるのです。

その後国子おばさんはスチュワードスになり、パイロットのカールと結婚し幸せな生活を送っていました。ある日、国子おばさんは小学生と年長の息子さん達に自分の小学校時代の戦争体験を聞かせたそうです。一九四五年春満州で暮らしていた時、B29の爆撃を受けた話をしていたら、カールが階段を駆け上がり自分の飛行記録をログブックでたしかめ、「It's me (それは私だ)」と叫びました。すると子供達が「Dad did not love me (お父さんは僕達を愛していないの)」と泣き出しました。父が愛する母を、操縦する飛行機から爆撃して殺そうとした事を知り凄くショックを受けたと思いま

NIITプロモ賞

おてつだいだいすき

●南片江小学校1年

柏原 李香

わたしは、おてつだいだいすきです。せんたくものたみやおみそしるづくりなど、たのしくてだいすきです。なつやすみも、まいにちつづけています。ほいくえんのとくに、はじめてハンバーグをつくりました。おにいちゃん

のおおきなボールに、おにくとたまごとみじんぎりにしたたまねぎをいれました。でぐちゅぐちゅとまぜました。しおとこしようもいれてべちよべちよになるまでこねました。おにくがつめたくて、てがひんやりしてきました。でも、きもちよかったです。そのあと、まるめてハンバーグのかたちにして、おかあさんにやいてもらいました。そのあいだに、わたしはピーラーでにんじんのかわをむきました。おさらに、ハンバーグとブロッコリーとにんじんをき

す。しかしカールは祖国の為に下人がいるなんて思っていたら戦争はできない。ただ忠実に任務を遂行した」と言ったそうです。国子おばさんはこの時もの凄く辛そうな顔でした。

私の大好きな国子おばさんはいつも笑顔にあふれた優しい人なのに、こんなに辛くて過酷な戦争体験をくぐり抜けてきたのです。国子おばさんの優しさは、辛いこと全て飲み込んだ優しさなんだと気がつき、もつと国子おばさんの事が好きになりました。私もどんなに辛くて哀しい事があつたとしても、みんなに優しくできて、みんなから好かれる人間になりたいと思いました。

黄色への挑戦

●城西中学校1年

山田 萌

あの音、あの感覚初めてだった。中学校入学後、テニスクラブへ入会した。何かスポーツをしたい、気持ちのオンとオフの切り変えが上手くなりた、そして一番の目的は自分への挑戦だった。

ラケットを持ち、シューズをはきコートに立った。もちろん経験のない事なので緊張した。他の人がラケットを振る音、ボールがガットに当たる音がさらにそれを高めさせた。ラケットの持ち方もままならないのにコーチとのラリーがスタートした。案の定、空振り。

「スラッ。」面白くて笑いが止まらなくなる程の空振り。何度も何度も空振り。仕舞いには、空振り選手権出場中かと思う程の空振り。驚きだった。ボールにラケットを当てる事がこんなに難しいとは。どうにかしたいとパソコンでユーチューブの動画やテレビでテニス大会を何度も繰り返し見た。そして自宅内で自主練習をした。続けるのが気が付かなかった。ラケットとの距離、体の使い方全てが合う時があった。その気持ちをまた感じたいとより一層、自主練習に力が入った。

クラブに入会して一ヶ月。いつも通りストレッチにランニング。コーチとのラリーがスタートした。「あれ、違う。」不思議な感じだった。心の中でボールをよく見て、腰を回転させ振り抜く。そう呪文

けえきのつくりかたをおしえてくれたり、たくさんあそんでくれます。おこるときもあるけど、それはわたしのことがたいせつだからだそうです。わたしのためにおこってくれるおばあちゃんがだいすきです。わたしはかぞくのために、おてつだいをがんばっています。くつならべやぞうきんがけです。「ありがとう」といってよろこんでくれると、わたしうれしくなります。

これからもたくさんおてつだいをし、かぞくをよろこばせてあげたいです。そしてわたしもおとなになったら、こんなかぞくをつくれたらいいなとおもいます。

のごとく唱えた。

「パッコーン。」

目の前を黄色が走り抜けた。一瞬、時が止まったように無音になった。

「ナイスショット。」

コーチの声がその瞬間をつら抜いた。

「あつ、当たったんだ。」ドキドキと嬉しき、照れくささと信じがたい気持ちが一気に迫ってきた。そして、吸った空気の冷たさが心地よく全体が透明になっていくようだった。とにかく気持ちよかつた。

その日からだった。テニスに興味を持ち本当に上手になりたいと思つたのは。何故、出来ないのか、どうすれば出来るようになるのか考え試行錯誤をしコーチへ積極的に質問するようになった。そして、誰にも言つてなかったテニス。今では言える。

「テニスやつてるんだ。とても楽しくて今、夢中なんだ。」

始まつたばかりのテニス、そして自分への挑戦。たやすい挑戦ではない。でも、いつか決めてやる。美しく鋭く落ちるあの音のダウンザラインを。

大すきな本

●西高宮小学校2年

菅蒲 優志

ぼくは本をよむのが大好きです。なぜかというといつもとちがうふしぎなせいかに出あえたり、本とうにいたすごい人たちを知ることが出来るからです。

ぼくは、あさ早く目がさめた時や、よるねる前に本を読みます。おかあさんが、「もういほんよ。」と、ぼくをよんでも、しゅうちゅうとして本を読むのがとまらなくなりました。学校の休み時間もそとに行けない時は、ともだちといっしょにとしよしつに行きます。それほどぼくは、本が大すきです。

まだ2年生なので、ならつていないかん字や、わからないことばがたくさんあるため、読みたい本も読めない本がたくさんあります。それがかなしいです。ぼくは、たくさん本を読んで、いろいろなことをたくさん知りたいです。ぼくがとくにすきな本はエジソンとのぐちひでよのんです。

エジソンは、なんどじっけんをしつぱいしても、あきらめずにたくさんのはつめいを

わたしのだいすきなかぞく

●和白東小学校1年

人見 愛空

わたしは4にんかぞくです。おとうさんとおかあさんとおとうと、そしてわたし。わたしはかぞくみんながだいすきです。おとうさんはまい

大きな水泳

●野芥小学校3年

田邊 海心
タナベ カイシン

ぼくが水泳をはじめたきっかけは、お母さんにすすめられて体けんに行つて、さいしよはそんなにすきじゃなかったけど、どんどんやっているうちにはやくて上手になつてきてすきになつた。楽しくて、おもしろくて、はやくなりたいと思う気持ちがとてもどんつよくなつていった。じゅんせんしゅになつてくん習が多くなり、むずかしくなつた。

「バック負けんよー。」と先生が言ってくれるので、ぜったい負けないぞと思つておもいつきり泳ぐ。ぼくは背泳が一番すきだ。そのわけは、はじめて泳いだ時はやく泳げて楽しくてほめられてうれしかったからだ。

今年の夏はリオオリンピックがあり、ぼくはテレビで日本のせんしゅのかつやくを見て、きれいでかつこよくてすごいと思つた。その中でもぼくは入江せんしゅみたいになりたいと思つた。わけは、ぼくが一番すきな背泳のせんしゅで泳ぎ方がきれいだからだ。そしてはぎ野せんしゅが

金メダルをとつたレースを見た時は

「がんばれー、がんばれー、わーやつたー。」とぼくはさけんだ。そしてぼくもいつかオリンピックで金メダルをとりたいと強く思つた。ぼくはだれよりもはやく泳げるようになりたいと思つた。そのために、これからどんなにくるしくてむずかしいくん習でも、あきらめない。ごはんもたくさん食べて体を大きくする。そしてだれよりもどりよくする。ゆめをかなえるために。

うれし〜ことかなし〜こと

●野芥小学校3年

藤木 悠
フジキ ユウ

ぼくは、夏休みにくま本のおじいちゃんとおばあちゃんの家に行きました。くま本のおじいちゃんとおばあちゃんとは1年の中で夏休みとお正月の2回しか会えないのでぼくはいつもとてもたのしみに

しています。いつもおじいちゃん、ぼくたちがいえるようになったらすぐにプールにはいれるようにぼくたちがくるまえからじゅんびしてまつてくれます。今年もいえについて

たらプールができました。すぐにぼくとおとうさんとふくをぬいできがえてプールにとびこみました。とてもあつて日だったのでもつめたくて気もちがよかつたです。いつもは3日や4日間ぐらいとまつてふくおかにかえるけど、こんかいはおとうさんのしごとの休みがみじかくて2日しかとまらなかつたのであつというまに時間がたつてあまりおじいちゃんとおばあちゃんとおそべずもつと時間があればいいなあ。と思ひました。ふくおかからくま本に行く時はおじいちゃんとおばあちゃんに会えると思ひとてもたのしみとうれしいきもちでいっぱい車の中でねていたのもありふくおかからくま本とのたらぎ町のおじいちゃん、おばあちゃんのいえまで2時間30分の時間がとても早かつたです。かえりはかなしくずーとおきていたので時間が長かつたです。かえるとちゆうにいつもはわからなかつたのにとてもこぼこの道があつておとうさんに、

「このみちすぐく車がゆれるね。」

「この前のくま本のじしんでみちがでこぼこになつていんだよ。」と言つて、ぼくは、くま本のじしんのことを思ひだしました。こうそく道ろの上からよこを見るとまだ家のやねの上で青いシートをしているところがいつぱいあつたりしておじいちゃん、おばあちゃんとおわかれしてきてかなしいきもちがもつとかなしくなりました。ほんとうにじしんなどこなければいいのになあ。と思ひました。こんどはおじいちゃん、おばあちゃんの家に行くときは、くま本の人たちの家がきちんとしゅうりしてすみやすくなつてればいいと思ひます。

RKB毎日放送賞

世界で一つだけの

特別な地図帳

●西高宮小学校5年

大畑 敦幹
オハタ アツキ

ぼくは、地図帳が大好きです。きっかけは、おじいちゃんとおばあちゃんが日本地図をプレゼントしてくれたことでした。見ているうちにどんなその魅力にはまつてしまいました。

ぼくが地図帳を見ていて最初に目にとまるのは、高速道路です。その高速道路が、どこを通っているのかを見るととてもワクワクします。また、ジャンクション、インターチェンジ、サービスエリアやパーキングエリアとの接続の形を見ていると変わった形やおもしろい形があり、その土地と関係しているのかなど考えながら見ているとつい長時間見てしまいます。

二つ目は、国道、県道および一般道です。地図帳をよく見ると道一つ一つに番号がついているだけでなく名前がついていることが分かります。ぼくが福岡に来て、初めて

知つた道路名は、福岡筑紫野線です。その名前から福岡と筑紫野を結んでいるのかなとすいそくできます。さらにその一部区間は、高宮通りという名前もついています。今度名前の由来やその道路にまつわる事についても調べてみたい

です。三つ目は、計画中や建設中の道、線路、駅です。九州の高速なら九州中央自動車道延岡線や中九州自動車道などがあります。線路では、九州新幹線長崎ルートが今建設中です。できるのが、いつかとワクワクします。その他にもまだまだ計画中や建設中の道路や線路があります。ぼくは、すでにこんなにたくさんあるのに、まだまだ作るなんてすごいし、実際にできたらもつと便利になるんだろうなと思ひました。

できるまでには、まだまだ時間がかりそうですが、ぼくが大人になったら、その道を車で走つたり、電車に乗つて旅行してみたいです。

その他には、地形にも興味があります。中でも、川がどこを通っているのかということには、すぐ興味があります。なぜかという、川が流れている場所から、道や線路の場所をみているかのよう

想像できるからです。さらに山や島が、どこにあるかをおぼえるのも、とてもおもしろいです。たとえば、桜島は、もともとは、周囲を海に囲まれた島でしたが、何度ものふん火によつて、今のように大隅半島とつながりました。このように地図を見ているとその土地の歴史をも知るきっかけになり、もつともつと地図に書かれていること以外のことも知りたくなつてきます。

ぼくは、このような理由で、地図帳が大好きになりました。これからもいっぱい地図帳を見て、気になった箇所についてどんどん調べて、自分の頭の中に世界で一つだけの特別な地図帳を作りたいです。これからもたくさん地図帳を見たいと思ひます。

私が夢中になつていること

●姪北小学校5年

永松 芭菜
ナガマツ ハナ

今私が夢中になつていることは、三年生のときからやつている野外キャンプです。

そのキャンプはとても体力

を使います。やつたことはいろいろあるけど一番心に残つているのは五年生のキャンプです。まだ二回しかあつてないけどとても心に残つています。

一回目のキャンプはクライミングチャレンジといつて、がけを登る活動でした。まず山に登つて山にあるがけを登つていきます。私はボルトリングはあるけどがけは登つたことがなくてきんちようしていました。自分の番がきて、登りおわつた子が、どこがきついかどこはすべりやすいとか教えてくれたので少し勇氣がわいてきました。教えてくれたとおり、最後がきつかつたです。目の前にゴールがあるのに、手や足をかけるところがなく止まつていました。下にいるみんなが応援してくれているのが聞こえて一しようけんぬい登ろうとしました。全力で手をのばしてゴールの目印にさわりました。それを最初からみてくれたみんながはく手してくれました。上からみた光景がとてもきれいにみえました。あきらめないことの大切さを学びました。

二回目のキャンプは手作りイカダチャレンジといつて、イカダを作つてこぐ活動でした。まず山に登つて竹を切つ

て運んで加工して組み合わせるなどいろいろあります。組み合わせるときはピーピーロープを使いました。ピーピーロープで竹をつなぐときに少しでもゆるんでいたら川でこわれることもあるので協力してつなぎました。でき上がつて川にうかべてからみんなが乗りました。それから力を合わせ、タイミングを合わせかけ声を言いながら目的の場所に行けるようにこぎました。最初は自分のことにせいっぱいでかけ声はかけていませんでした。そうしたら先生が、

「みんなも同じ気もちだけどがんばっている。一人だけでも休んだらがんばっている人はどう思うかな。」

と、教えてくれました。それからまわりの人の気もちを考へて行動するようになりました。キャンプに参加してすぐは、きつと思つていました。今は体力がつくようになると考えながら活動しています。いろいろな体験とおして体力をつけたり、仲間とつうじてコミュニケーションをつけたりするの、日常の中でも使えらると思ひます。私は、キャンプに参加して良かったと思ひます。

モリヤマ
森山 稔彩

みなさんソニーングは、やったことはありませんか。わたしは、五年生ではじめて「ソニーング」というものを作りました。ものを作ることが大好きなわたしは、家庭科のソニーングのじゅぎょうが楽しみで楽しみで心の中がワクワクしていました。初めは、なみぬいや、本返しぬい、半返しぬいばかりでした。でも家でそれらをやっていると、なんだか楽しくなってきた。朝はやくおきたときに、いつもやっています。

次は、ボタンつけをしました。あしつきボタンや四つあなボタンなどをしました。とっても楽しかったので、家でもフェルトをかって毎日家でやりました。コインケースを作ったり、ティッシュケースを作ったり、ネームプレートを作ったりしていたら、いつの間にか楽しかったから、大好きになっていました。

それから、よるもおさいほうをするようになったので母が、「よっぽどおさいほうがすきなんだね。こんどボタンがはずれたら、つけてくれる。」

スやコイなどがいて、いつもぼくはブラックバスを釣っています。ブラックバスといっても普通なら、四十センチから五十センチくらいの大きさですが、その池では、ぼくの足のサイズくらいの大きさのバス（ブラックバスの略）しか釣れません。でも、なぜぼくがそこで釣りをするかというと、家から近いというのがあります。一番は釣りをしている人が少なく、自然豊かでないといっても、とても落ち着く場所だからです。ぼくは、釣りを始めたときとまだのときを比べると、マナーが少し良くなったというような気がします。なぜなら、ぼくが釣りを始めたばかりのころ、切れてしまった釣り糸を、下に捨ててしまったときにお父さんが、

「釣り人は、マナーもよくないと、捨てた釣り糸を拾い、ポケットに入れた姿をきっかけに、今では、釣り場でゴミがあったときは、ごみ箱に捨てたりするなど少しだけですが自分のことだけでなく、周りのことも見れるようになってきたような気がするからです。

ぼくは、釣りを楽しむだけが釣りの魅力というわけではなく、大自然の中で、みんな

と、いわれて、なんだか自分が必要とされているようで、とてもうれしかったです。それから祖母にティッシュケースを作ったり、妹にネームプレートをつくってあげたりしました。わたしはここで、自分の大好きなことで人によろこばれることが、とてもうれしかったです。わたしはいろいろなデザインになりたいと思います。なのでこういう、物作りや、ソニーングをすることで夢にむかっているようで、ワクワクします。

夏休みに入ってから、手芸用品店や、ざっか屋さんに行つて、手作りグッズコーナーを見て、自分でも作れないか、デザインの参考にしたりしています。前までは自分で何かを作ることなんて考えたりもしていなかったのに気づけば、そういう目で見たりにしています。

これからはティッシュケースなどにタッセルなど少しデザインが入ったものなどをつくってみたいと思つています。また、ナフキンやバッグなどの生活していく中で必要な物をつくつてみたいと思つています。そのために、おこづかいをためて、布や糸やボタンなどを好きなようにつくれるようにしたいと思いま

す。気になった物で自分で作ることができるようになってから、ソニーングを、より楽しく感じるができるようになりまし

おっかん

●名島小学校5年

ヤノ
矢野 詩織

奄美の家には、三つの家があった。みんな一階建の木造で、小さな家が寄りそうように建っていた。一つは、おじいちゃんとおばあちゃんが住む家。そのとなりが、おじいちゃんのお母さんである、「おっかん」が住む家だった。そして門に一番近い家には、機械織り機が三つ横に並んで置いてあった。

「おっかん」はそこで九才をこえても、毎朝大島つむぎを織っていた。しかし私は「おっかん」がつむぎを織っているすがたを見たことがない。「おっかん」は私が起きるころには、もう機械織りの仕事を終えていたからだ。私は「おっかん」と一緒に朝ごはんをよく食べた。「おっかん」は好ききらいせず、野菜もこ

はんも味そしるも食べていた。背が低いけれど、がっしりしていたうで。白がは短く、すつきりしていて、清潔だった。青色に染められた半袖と半ズボンをはき、働きの者が、あまりつかれている感じがなく、笑うとエクボができた。

東京で働いていた私のお母さんやお父さんはよく「つかれた、つかれた」と言っていたけれど、「おっかん」はそんなことを一言も言わず日々の仕事をしていた。朝ごはんが終わると「おっかん」は近くの畑へ農作業に出て行った。「おっかん」は仕事を終えて帰つてくると、すぐにお風呂に入り外の汚れを落として、夕ご飯にやつて来た。わたしはそんな「おっかん」が大好きだった。

「おっかん」と一緒にスイカを食べたことがある。少し高い声で「奄美は楽しいか？」とよくたずねた。私がうなずくとうれしそうだった。「おっかん」の孫は七人いたが、一人以外はみんな奄美をはなれていたから、みんなが帰ってくる夏を待ち遠しく思っていた。そんな「おっかん」が亡くなったのも、夏だった。親せきがひさしぶりにそろって、「おっかん」の家に帰ってきた。私が会ったことのないお

大好きな釣り

●赤間小学校6年

サノウ
佐藤 翼

ぼくは、釣りが大好きです。なぜなら、釣りをしていると、いやなことがあつても忘れられるからです。ぼくがどうして釣りを始めたかというところ、お父さんがもともと釣りをしている、それに一度ついていって見たらとても楽しかったからです。いつも釣りをするときには、近くにある公園にお父さんと二人で行きます。その公園の池には、ブラック

と楽しんだり、競い合つたりするのも一つの魅力であるのではないかと思ひます。釣りをしている時に釣りざおの先つぼのほうに、トンボが枝と間違つてとまったときがあります。ぼくは、こんな、自然とのふれあいがあるということも釣りが好きな理由の一つでもあります。

NEC賞

大すきなおともだち

●奈多小学校2年

モリ
森 悠真

ぼくは、おともだちといっしょにすることが大すきです。なぜかというところ、いつもあそびに行くときにむかえにきてくれたり、すべりだいの上から下におとすあそびをしているときに、わらつてたのしいからです。ほかには、ぼくが、あそびに行くのをわすれたときは、

「いっしょにあそぼう。」
と言つてくれたり、ゲームをするときに、
「こうたいこうたいでやろうね。」
とやさしく言つてくれるから

たまに、じてん車をこうかんでのるときもあります。じてん車をかしてもらつてこいだときに、こぎやすかったです。ぼくもじてん車を買つたときに、かるかつたらうれいしです。ぼくの今もついでじてん車は、小さいけれど、こんどぼくのおたん生日に買つてもらうじてん車は今のよりタイヤが大きいです。じてん車がおともだちといっしょの大きくなるのがうれいし、たのしみです。

ぼくは、たまにじてん車でころぶときがあります。おともだちが、
「だいじようぶ。」

とこえをかけてくれます。うれしくてだんだんケガが、なおりそうな気がします。ぼくもまねしてこえをかけたいし、人のやくに立ちたいです。そして、ぼくはサッカーをならつていきます。ぼくがサッカーのときに、おともだちが、
「がんばつてね。」
と言われたとき、がんばろうという気もちがわいてきまし

じいちゃんの兄弟姉妹も帰つてきていた。そう式が終わると、親せきと一緒に火そう場に行き、終わるのを待った。私は不思議と悲しくなかつた。「おっかん」はみんなに会えてうれいだろうなと思つた。

あれから七年。私は奄美に帰省し、「おっかん」の七回きをむかえた。奄美の家は、一つなくなつていた。あの機械織り機が置いてあつた家だ。そのあとは、畑になつていた。

ぼくは、釣りが大好きです。なぜなら、釣りをしていると、いやなことがあつても忘れられるからです。ぼくがどうして釣りを始めたかというところ、お父さんがもともと釣りをしている、それに一度ついていって見たらとても楽しかったからです。いつも釣りをするときには、近くにある公園にお父さんと二人で行きます。その公園の池には、ブラック

た。おかげで点をきめられました。めちやめちやうれしかったです。ぼくもまねしておともだちがプールのときに、
「がんばつてね。」
とこえをかけました。おともだちが、
「うん。がんばつてくるね。」
と言つてくれました。ぼくもいい言ばをかけたので、いい言ばがかえつてきました。これからもつづけていい言ばを広げていきたいです。

ぼくは、おともだちとあそんだり、わらつたりしていると、こころがウキウキワクワクします。たのしみがあると、きは、ハラハラドキドキします。だから、おともだちがいっしょにいると元気がでるし、大切ななか間です。

わたしの大好き

●吉岐小学校5年

モリタ
森田 一ノノ

わたしの大好きなものは、4つあります。
1つめは、家族です。理由は、わたしが元気がない時は、

いつでもはげましてくれます。そう言う所や、とってもおもしろい所が、大好きです。2つめは、友達です。本当に好きな友達は、もえか、うーちゃん、れみです。とにかくおもしろくて、気が合います。親友をこえた、大親友です。おばあちゃんになつてもです。3つめは、ホビジロザメです。みんな、こわいと言うけどわたしは、かわいくてかつこいと思ひます。目がたれ目で歯がとがってかつこいのです。死ぬなら、サメに食べられてもいいぐらいです。4つめはシンクロです。私の1年間の半分はシンクロです。水の中は楽しくて、シンクロはきついで、とつても楽しいです。わたしのしよる来の夢もシンクロ選手です。本当に、わたしの周りには、大好きなものばかりです。本当に幸せです。

このように、わたしの大好きなものは4つあります。大好きなものが多いことは、幸せなことなんだと思ひます。わたしが、おばあちゃんになつてもこの4つは好きなのか、気になります。

一つの試練

●野間中学校1年

カイ ショウマ
甲斐 匠馬

僕は、今、とても強いラグビーチームに所属している。三年生の先輩が九州大会に優勝し、全国への出場を決定した。去年も全国へ出場し、惜しくも準優勝に終わってしまった。

「今年こそ。」
と先輩も気合いが入っている。そんな先輩は僕の憧れだ。

僕は、今一年生で、来年は、二年生だ。来年には、レギュラー（試合にいつも出る人）になりたい。レギュラーになって全国大会を優勝して、その次の年も優勝して三連覇するのが今の僕の夢だ。

しかし、僕は今、人生の分かれ道に立っている。それが、ラグビーを辞めるか、辞めないか。ラグビーも好きで、ラグビー仲間も大好きなのだが、僕には一年のコーチである父親がいる。父親は大学で（ラグビーの）全国大会で優勝している。とても強くて尊敬している。

しかしラグビーに関して、かなり厳しい。父親がコーチになって気付いたのだが、コーチの息子というのは、とことも一度や二度じゃない。けれど、そんな部活をやめずにここまで来られたのは家族や友だちの支えがあったからだと思う。私が泣いて帰ったときには、

「大丈夫。頑張ったね。」
と言ってくれる母、部活が嫌だと話すと
「大変やね。けど、あと少しで楽しくなってくるから。」
と励ましてくれる友達。今まで支えてくれた人、一緒に成長してくれた仲間には感謝の気持ちしかない。

そんな気持ちは、やはり部活に入ったからこそ味わえるものだと思う。苦しくて地獄のようだった日々はこの達成感のためだったのだろう。

そして、最後のコンクール。今のメンバーで挑む、最初で最後の夏。私たちが目標にしていた「県大会金賞」には届かなかったけど、後悔はしていない。が、満足もしていない。

これから、コンクールはないけれど、目標に向かって全身全霊で努力していこうと思う。私は部活が、大っ好きだ。

私が大好きなこと

●照葉中学校2年

ムネタ ヒナ
村田 日菜

「ピーツピピ」と、大音量の目覚ましがあった。それが私の1日の始まりだ。

そして、いつものようにサツと朝食をとり、身支度を終えた私は小走りで家を出た。部活に行くためだ。私はバスケ部に所属していて、今年初めて「先輩」という立場になったばかりなのだ。

去年の今ごろは入部したてで、ただただ先輩方のサポートにいたり、何かを教わってひたすら覚えたりと、日々新しいことを覚えるのに必死だった。

しかし、これからはちがう。今年から1年生が入ってきて自分が先輩になるからだ。そして私は考えるようになっていた。

今までの先輩方のように、だめな所は注意して、良い所はほめてあげたり、1年生のお手本となる行動をとれるのか？と。

でも、今のままの自分ではダメだと思った。それは普段の生活を見てとれる。

例えば人とすれ違った時の

君が大好きなこと

●田隈中学校3年

ケンカウ テラキ
岸川 千明

胸の奥でドキドキと高鳴るあの緊張感。これからも忘れることはない達成感。怒られて泣きながら帰ったあの日も、毎日詰め込んでいた練習も今ではいい思い出になった。終わってから気づいたけれど、私は部活が好きだ。

最初は、何も分からないまま吹奏楽に入った。ただ、先輩が楽器を吹いているのがかっこよくて自分もああなりたいと思った。けれど、初心者之急に上手になるわけもなく憧れだった先輩は卒部してしまった。一、二年だけ残された部活は、私にとって「地獄」となった。

「先輩よりも早く行動して。」
先輩になるとよく分かる言葉も、まだ一年生の私には負担でしかなかった。

二年生になると、先輩ができ、新しい顧問の先生がきた。部活の方針が変わり、「県大会金賞」を目指すようになった。三年になって、副部長をすることに、責任や先輩に頼られることも多くなった。部活を辞めようと思った

NPO博多の風賞

本と「旅」

●香椎第三中学校2年

タテシ モエ
立石 望笑

私は本を読むことが好きだ。本のひとつひとつの中にこの世界とは違う、別の世界が詰まっている。そして、本を読んでいるときだけは、その別の世界を見ることができるとをちよっとした「旅」だと思ふ。

本屋、書店や図書館などで本を選んでいるときは、私にとってすごく幸せだ。たくさん楽しそうな世界がひろがっていて、その中のどれかを「旅」することができると思ふと、踊ってしまうくらい、うきうきしてしまう。

そして、それは皆の思う本イコール小説に限ったことではないと思ふ。漫画や図鑑、絵本、辞書だって本だ。漫画や絵本にも楽しそうな世界は詰まっているし、図鑑はその動物や植物がたくさんある面白い世界が詰まっているし、辞書にはたくさんの言葉があふれる知識の世界が詰まっ

あいさつでも、私は明るさや元気が欠けていると思う。それは練習中にも同じ事が言える。練習は当然、体力的にも精神的にもきつい。

でも、きつい時にきつい顔をしたり全力を出さないと、自分自身に負けてしまっていると思ふ。

だから、私はきつい時こそ誰よりも大きく響くような声を出していきたいと思う。そうすれば、チームの雰囲気も良くなるし、それを見た後輩達への良い手本になれると思う。だから、どんな時でも自分自身に負けない強い人間になりたいと思った。

そして、これから先もずっときつい事や今まで経験した事のないような壁にぶち当たってもかもしれない。けれど私は初心者で、下手かもしれないけど、1つだけ言えるのはバスケットが本当に好きだという事だ。

だから、初心の心や気持ちを忘れず、日々の練習にはげみ、誰からも慕われるような人になりたい。

そして、誰からも応援されるような最高のチームを作っていきたい。

らないパスポートもいらぬ財布もいらぬ。いる物は、本だけだ。

そして、「旅」にでかけていくと、そこでは、お土産を持ち帰ることができる。知識という名のお土産を。知識とおいて、どんどん使う。

すごく変な「旅」だけど、面白くて楽しくて、時には腹が立ったりかなしかったり切なかつたりする。だから、本を読むのは好きだ。

そして、この「本」を読むこと、「旅」へ出ることは、私にとって寝るのと同じくらい大切なことだ。これからは、紙の本なんて古いと思われれるかもしれない。でも私は、本を持った時のうきうきが好きだ。だから、本が好きだ。

トライ

●香椎第三中学校3年

イワナガ コウタ
岩永 孝太

レフリーがホイッスルを吹き、チームメイトが笑いながらやって来る。周囲は大歓声。まさか最後の県大会の場でトライを決められるなんて。胸からこみ上げる感情がおさえられず、思わずガッツポーズをする。今の自分なら何でもできそうな気がして来る。そうだ。何でもできる。よし。このままもう一本。もう一本トライを――。

ギリリッ。目覚まし時計の音――。ああ、夢か。がっかりしたと同時に少し得をしたように思える。荒々しく目覚まし時計をたたき音を止める。と、叫びながら体を起こす。早起きは苦手だ。でも今日は、今日だけは、寝坊するわけにはいかない。この日を僕は待っていた。今日はラグビーの最終試合。それを二度も体験できるなんて、こんな得はないと僕は思う。

僕がラグビーと出会ったのは小学校四年生の時だった。はじめは、泣いて家に帰って来るほどで、ラグビーは僕にとって恐怖そのものだった。しかし、だんだんと体が強く

わたしのかけがえのない 大好きなもの

●野間中学校3年

田淵 梨瑚
タラチ リコ

私には、たくさんの好きなものがあります。その中でも特に私が生きていく中で必要なものと考えられるものを紹介します。

それは、「友だち」です。私は鹿児島・宮崎に住んだことがあるので、そこにも友だちがいます。もちろん福岡にもたくさんいます。その中の一人の女の子は、家も近所で部活も一緒にパートナーも一緒でした。彼女はとてもトランプペットが上手くて、入部したの頃は正直遠い存在の人でした。しかし、ほとんど一日中一緒にいるのでだんだんと打ち解け合っていききました。彼女のいいところはたくさんあります。到底私には敵わないくらい素晴らしい人です。そんな彼女に、嫉妬することも少なくありません。私がきつく当たったら、正々堂々と彼女も私に向かって言いたいことをぶつけてきます。彼女からきつく当てられたら私もぶつけていきます。でも、それが原因で私たちの仲が裂かれたことは一度もありません。

で父が私たちのバスケの試合の写真を撮ってくれました。速く動くし、常に動いているスポーツなのにしっかりと撮れていてもちろんカメラを見ていないみんなの一生懸命な姿が写っている私の大好きな写真でした。その写真を部員が見るとみんなが「凄いい」「この写真ほしい」などと言っていて、もしこれが自分の撮った写真だったら凄く嬉しいだろうなと思いい、誰かが頑張っている姿を撮ってみたいと思いました。

自分の部活の写真を撮ることとはできなかったけど、他の部活の人が頑張っている姿は最後に撮ることができました。その写真を見せるとみんなとても喜んでくれました。自分が撮りたくて撮った写真をそんな風に喜んでくれて、本当に嬉しかったです。今まで誰にも見せたことがなかったのですがこんな相手が喜んでくれるとは思っていませんでした。この時私は本気で写真家になりたいと思いました。これからもたくさん写真を撮って自分の大好きなことをもっと大きくしていきたいです。

飯を毎日作るのはきついと思う。そういうときに、私が作ってあげるとお母さんは嬉しそうだ。美味しいと言って何で味付けしたかなど、レシピをきいてくるが私は教えない。自分だけのものにした方がいい。味が薄いとかわいいうるアドバイスはくれるので、そこは参考にして次に活かしていく。それが自分のやり方だ。自分にとって料理人やパティシエになることは難しい。だけど誰かを笑顔にすることはできる。それはとても素敵なことではないか。好きなことに夢中になれることは素晴らしいことだと私は思う。そして今日もまた、エプロンを着て台所にいる。

くて、黒くて大きなカメラにずっと憧れていたのももらった時は嬉しくて何の目的もない写真をたくさん撮っていました。

私が写真を撮ることに憧れた理由は、行事の時にカメラマンさんが撮って下さる写真を見て、カメラ目線ではなく、みんなが楽しんでいる時や真剣な時などの素顔の瞬間を写真に収めていることがとても凄いいと思ったからです。普通にかメラを見て撮るのも良いけれど、みんなで笑い合っている写真や同じ方向を向いている写真が残る瞬間な気がして好きだったの、自分もそんな写真が撮れるようになりたいと思ったのがその時でした。

カメラをもらってからは外出する時はほとんど持ち歩いていました。人だけではなく空や鳥など残したい、誰かに見せたいと思った瞬間を下手でもたくさん撮りました。誰かに見せたいと思った写真でも人に見せることはありませんでした。何百枚も撮りました。中学二年生の誕生日の時に新しいカメラを買ってもらいました。前のカメラより高性能で動く人や物もブレずに撮れたり、明るさを調整できたりまするものです。そのカメラ

笑うお母さん。私はこのとき、料理は魔法だと思った。

そして、私は小学二年生の八歳から包丁をもつ。最初は何もできなかったけど、料理の楽しさに、気づいた。小学六年生になったときには毎日のように夜ご飯を作っていた。部活から帰ってきたお兄ちゃん、仕事から帰ってきた親がたくさん食べてくれるのが嬉しかったから。レシピ本を見たり、料理番組を見たり、自分で研究したりして今ではレパートリーが増えた。もちろん、お菓子作りもできる。毎年バレンタインにはケーキを焼いて、友達と交換している。

でも、私は料理人やパティシエになるうとは思わない。理由は大変そうだから。仕込みや片付け、掃除や買い出し。正直面倒くさがり屋の自分には向いていないと思う。だけど、友達と夢を語り合ったとき、一緒にレストランや喫茶店を開いてみたいと思ったときがあった。何かやる時に一人でやるのではなく、誰かとすれば楽しいし、続けられそうだから。しかし、これはあくまでただの妄想であり、実現するにはとても難しいであろう。専門学校や修行：やっぱり大変そうだ。

帰りの遅いお母さんは、

でもとっさに体が動き出す。ボールを持って走り出す。風が僕の背中をおし、そして追いこした。

「トライ」
チームメイトが笑ってこっちへ来る。周囲は大歓声。今ははっきりと分かった。僕はラグビーが大好きだ。

今朝の夢。鮮明な夢。それは今、現実となり、ラグビー漬けの日常は非日常となる。いや、まだなっていない。試合は終わっていない。最後の何か。僕は現実を「夢」にすべく立ち上がり、また走り出す――。

私が大好きなこと

●和臼中学校3年

夷 日向
ヒビス ヒナタ

私が好きなことは、父からもらったカメラで写真を撮ることです。

父からカメラをもらったのは中学一年生のときです。父が新しいカメラを買い、使わなくなったものをもらいました。私は携帯のカメラ機能や小さなデジタルカメラではな

は生きていく中で大切にしていくべき存在でずっと好きでいれるものだと私は思うからです。

私の好きなこと

●和臼中学校3年

安田 亜実佳
ヤスタ アミカ

「トントントン」「ジュー。」
今日もこの音が部屋中に響きわたった。私は今、エプロンを着て台所にいる。家族にご飯を作るために。

私の好きなことは、誰かの為に料理をすることだ。相手の喜んでいる顔が見たいから。料理に興味をもったのは小学校に入学した頃で、お母さんが料理している姿をずっと眺めていた。玉ねぎが包丁一本で細かくなり、真っ白のご飯が赤色に染まり、とろとろの卵がのって、あつという間にオムライスが出来上がる。卵、玉ねぎ、ご飯、ケチャップなどいろいろな食材からオムライスが完成する。一つ一つの作業に驚く私、私を見て

なつて上手くなつていくうちに、野球やサッカーとは全く違う緊張感やいっけがをしてもおかしくないスリル感、やればやるほど高まる熱、その全てにひかれていった。
「楽しい時間ほどすぐに過ぎる。」その言葉通り、仲間との楽しい時間はすぐに過ぎ去り、そして今日を迎えた。気づけば試合会場についていて、アップを始めていた。この先に待ちかまえる試合もそうやって過ぎていく。そう思うとこのアップで走る一歩一歩に力がこもる。アップが終わり、パスの練習をし、タックルの練習に入り、また試合へ一歩近づく。するとコートから、試合終了のホイッスルが聞こえた。いよいよだ。次は僕達の番。円陣を組み気合を入れる。今朝のあの夢を正夢に。夢を現実にする。

ピ―。試合開始。それと同時に僕達は飛び出した。次々と攻め寄る敵をタックルで迎え、一人一人確実に倒していった。絶対に後悔しない。その思いを胸に一歩ずつ着実に敵をおしていく。ここがふんばりどころだ。と、さっきまで敵が持っていたボールが自陣に転がっている。言葉はなかった。声すらなかった。指示なんて出ていなかった。

ん。むしろ、隠し事がなくなつてより一層深まりました。

私は、こんな友だちは初めてでした。ケンカしたらそこでもう関係は終わりだと思っていたけど、彼女はそんな私の考えを覆しました。初めは少し抵抗もあつたけれど、彼女は私を信用してくれているんだなと実感しました。その瞬間、私はもつと彼女のこと

が大好きになりました。
「『深友』と書いて『しんゆう』って読むんだよ。親友とか心友とか神友とか、たくさんあるけど私は『深友』が一番大切な人って感じがする。私とたぶこは『深友』だね。」

たぶこことは、私のニックネームです。これは、彼女が言ってくれた言葉です。聞いた瞬間私は泣きそうになりました。「一番大切な人」と言ってくれて嬉しかったからです。そして、私は彼女を『深友』として大事にしようと思えました。高校は離れても一生『深友』です。

まだたくさん友だちはいます。きつとこれからもたくさん友だちができると思います。そこで私は、彼女のように常に正々堂々と言い合える友だちをもつとつとつとつていこうと思います。友だち